

京（大野恵造）

解説 京都の風景を描いた詩。

水^{みず} 潺々^{せんせん}として 染色^{せんしよく}の 座^ざに 戯^{たむむ}る

三条^{さんじょう} 大橋^{おおはし} 秋晴^{あきは}れの 欄干^{おぼしま}は 長^{なが}し

京^{きょう}の 貴人^{あてびと} 装^{よそお}いて 渡^{わた}る

鐘^{かね} 殷々^{いんいん}として 楼閣^{ろうかく}の 朝^{あした}を 招^{まね}き

常塔^{じょうとう}の 夕^{ゆうべ}を 呼^よぶ 東山^{ひがしやま} 三十六峰^{さんじゅうろっぼう}

既^{すで}に 錦繡^{きんしゅう}の 彩^{いろど}りは あり

語釈 ※潺々Ⅱ浅い水が淀みなく流れるさま。また、その音を表わす。さらさら。※染色Ⅱ染料を用いて物に色素を浸透、定着させる。また、生地を染色した後には、表面に余分な染料が残留しているもので、これを放置すると、洗濯したときに余分な染料が流れ出し、他の衣類に色移りすることがある。※三条大橋Ⅱ、京都市にある三条通の橋。※欄干Ⅱらんかん。※貴人Ⅱ家柄や身分、地位の高い人。※殷々Ⅱ大きな音が鳴り響くさま。※楼閣Ⅱ高層のりっぱな建物。たかどの。※東山三十六峰Ⅱ京都市の東には東山という山が聳えている。この呼び名は中国の嵩山が嵩山三十六峰と呼ばれることから、それを真似て名付けられたと伝えられている。実際に東山には三十六の峰が存在しています。※錦繡Ⅱ美しい紅葉や花のたとえ。

通釈 京都の川の水は淀みなく流れ、染色後の残留色を洗い流す作業風景が見られる。秋晴れの三条大橋の欄干の長さと美しさ。京に住む貴人が装いながらその橋を渡る。そこに響き渡る楼閣からの鐘の音は朝を招き、常塔から夕方の東山三十六峰を眺めると、既に紅葉の彩りが映し出されている。